

JCS/TAWC 受賞者の学会参加報告(AHA2019/ESC2019)

With COVID-19 時代から pre COVID-19 時代の 国際学会 (AHA2019) 参加を振り返って思うこと

地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター循環器内科 あお やま り え
青山里恵

この度は第7回 Travel Award for Women Cardiologist (JCS/TAWC) を受賞させていただき、誠にありがとうございます。選考委員の先生方をはじめ、これまでご指導・ご鞭撻をいただきました先生方にこの場をお借りし心より御礼を申し上げます。そして京都府立医科大学 心臓血管外科・心臓血管血流解析学講座講師でおられ、Cardio Flow Design 社のアドバイザーを勤められる板谷慶一先生には本研究の解析など大変お世話になり、この場をお借りして重ねて御礼を申し上げます。2019年11月16日～18日にペンシルベニア州フィラデルフィアで開催されました American Heart Association (AHA) 2019 Scientific Session に参加させていただいたので報告させていただきます。

海外学会への参加は、雪の降るシカゴで開催された2016ACC に続き2回目であったが、前回同行した子供も大きくなり、渡米前夜に私の不在中の子供の食事を大量に準備したうえでの単身参加となった。激寒というよりは痛いという表現が適切な連日氷点下近い冷え込みであり、会場外にほとんど出ず、各種セッションを多岐にわたり聴取し勉強させていただいた。広大な poster 会場では様々な分野を様々な視点から研究された研究内容に圧倒され、また勉強になった。Late breaking のセッションでは 'Ischemia 試験' や 'DAPA-HF 試験' といった大規模臨床試験が目の目を見る瞬間を目の当たりにし、エビデンスがこうやってひとつずつできていくのだと大変感動した (図1)。

AHA では女性研究者の発表は決して珍しくなく、また AHA の現在の President である Robert A. Harrington 先生による presidential session での講演は女性医師支援も含まれ大変勇気づけられるものであった。poster そして oral セッションも女性研究者の発表が積極的になされ、また Learning Studio では "Go Red Women in Science & Medicine Lounge" という女性参加者向けのコーナーが設けられ、お茶菓子やコーヒーを楽しみながらトレーニング、Career や Women in Cardiovascular Disease といった内容での discussion のセッションが連日開催されていた。主に北米、アジア (中国・韓国) の女性医療従事者が参加していたが、男女共同参画に関しての事情は様々なものの、各国ともに問題点は多数ある感じであった。

私は MRI のセッションで "4d Flow Magnetic Resonance Assessment of Alcohol Septal Ablation for Hypertrophic Obstructive Cardiomyopathy and Surgical Valve Replacement for Aortic Valve Stenosis" と題した poster 発表をさせていただいた。肥大型心筋症による左室内狭窄もしくは大動脈弁石灰化による大動脈弁狭窄を有する患者では、左室内血流はどう違うか、そしてそれらの狭窄の解除により左室内血流はどう変化するかについて 4D-FlowMRI を用いて評価し、報告させていただいた。筋性狭窄と弁性狭窄では左室内血流や渦形成の形や大きさ・頻度に差があり、また筋性狭窄では左房内血流にまで影響がみられ、また筋性狭窄と弁性狭窄の解除では心室内血流の変化の様子がまったく異なっていた。多くの



図 1

人が興味をもって話を聞きに来てくださり、大変有意義な議論ができた。

COVID-19感染症が各国に広がり、国内の学会・研究会だけでなく、海外学会も Web での開催となっている。第84回日本循環器学会学術集会も完全 Web 開催となり、現地開催では到底聴講できないほどの数のセッションを聴講することができ、今までにない学会参加体験をすることができた。しかし一方で、現地に足を運び驚きや共感を体感し、元同僚やお世話になっている方々に現地でコミュニケーションをとるといったことはやはり Web では困難である。そうした face to face でのコミュニケーションやディスカッションが知

見を深め広げて、また臨床や研究のモチベーションに関与していると実感する。COVID-19感染症の終息への願いとデュアルモード社会の中で、学会や研究会が New normal としてのハイブリッド開催が今後もされていくことを期待する。今後も積極的に海外学会に参加し、さらなるモチベーションに繋げ、循環器診療及び循環器学の発展に微力ながらも貢献できるよう邁進していく所存である。

著者の COI (conflicts of interest) 開示：本論文発表内容に関連して特に申告なし